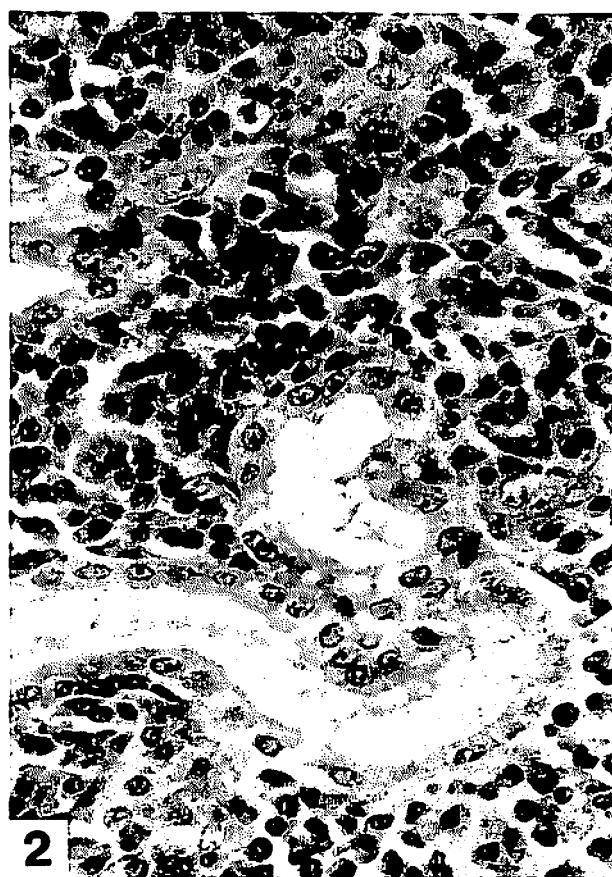
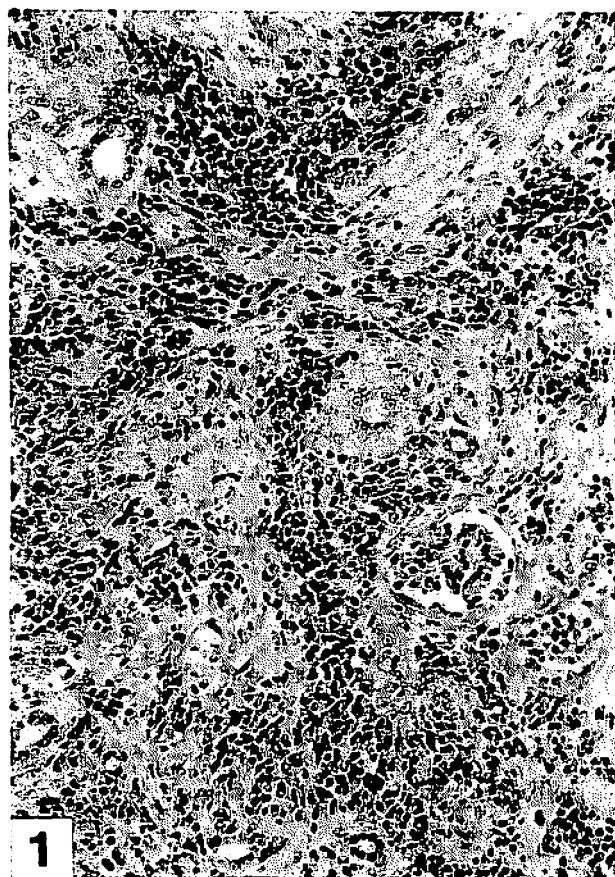


# 猫の腎臓

鹿児島大学農学部家畜病理学教室出題 第25回獣医病理学研修会標本No.438



**動物：**日本猫，雄，約6ヶ月齢，体重1.1kg。

**臨床的事項：**約1ヶ月齢の時，猫白血病ウイルスFeLV-A/Glasgow-1株を $2 \times 10^8$  FFU静脈内接種。その後，貧血，慢性的下痢症状，鼻気管炎等の症状を呈し，貧血は3ヶ月後に一時Ht値30%近くまで恢復したが，再び悪化し，殺時は18%であった。実験第126日目に触診で両側の腎に硬い腫瘤を認め，X線で腎の輪郭の変化を確認した。144日目に風邪様症状から食欲不振に陥ったので，麻酔，採血致死後剖検した。血清総蛋白7.5%と高く，脱水症状も無かったので，電気泳動で調べると $\gamma$ -globulin分画が45%を占めた。尿蛋白の異常は無かった。中和抗体の産生はみられず，多くの臓器からウイルスが回収された。末梢血中に形質細胞は認められなかった。

**剖検所見：**消瘦し，脂肪沈着乏しい。両側の腎に白色腫瘤がみられ，剖面よりや、膨隆する白色部は，ほとんど皮質に限局されるが一部髄質に侵入し，限界や、不明瞭であった。包膜は腫瘤に巻き込まれ，剝離不能であった。腎以外の臓器に著変を認めず，股骨髄は赤色，液状成分に富み，軟弱であった。

**組織学的所見：**腫瘤部は間質の線維性結合織増生と形質細胞浸潤が顕著で（写真1・2），実質の萎縮，崩壊，消

失がみられ，肥厚した包膜にも多数の形質細胞が認められた。弓状動脈内膜の増生，細動脈壁の肥厚があり，リンパ球の小集簇も散見された。細胞分裂像はかなりあったが，形質細胞と同定されるものはなかった。形質細胞は概して成熟形であるが，二核の細胞や変性像も見られる。他の臓器では，骨髓の赤芽球や有核赤血球は乏しく，骨髓球も少ないが，巨核球，リンパ球集簇，幹細胞様の幼若球が目立ち，多数の形質細胞が瀰漫性に分布するが，骨髓腫にみられるシート状増殖ではなかった。脾に髄外造血は認められず，リンパ節とともに形質細胞の異常増殖はみられなかった。腸粘膜固有層には形質細胞浸潤は顕著だった。肝細胞の有糸分裂像が目立ち，核内封入体（Cowdry A型）が時々みられた。脾の動脈に玉葱皮様の構造を認める部位があった。

猫白血病ウイルスは広汎な造血系臓器の機能的・形態的变化を起す他に，免疫抑制に伴う二次的疾患を引き起こすことが知られている。本例は猫の腎臓に両側性にできるLymphoid tumorの肉眼所見によく似ているが，組織学的に明確な形質細胞の腫瘍性増殖像は認められなかった。**病理組織学的診断：**骨髓腫様の血清所見を呈した猫の腎における形質細胞の腫瘍様浸潤。